

釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置の検討状況について

近年、全国的に少子化が進行する中、当市においても児童生徒数が減少し、今後さらに小・中学校の小規模校化が進むことが予測されています。小規模校は児童生徒一人一人に目が行き届くなどのメリットもありますが、小規模校化が進むと教育環境への様々な影響が生じることが懸念されます。

市教育委員会は、子どもたちにとって望ましい教育環境を整備するため、学校規模の適正化・適正配置基本方針を令和6年3月に策定しました。現在、基本方針に基づく推進計画策定に取り組んでいますが、その検討状況をお知らせします。

釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置基本方針

(令和6年3月策定)



1 基本方針の概要

(1) 釜石市の教育の基本理念

第三次釜石市教育大綱では、釜石市の教育の基本理念を「志と豊かな心を持って未来を拓く力を育む人づくり」としています。変化の激しいこれからの社会を生きるためには、基礎的・基本的な知識・技術を活用して自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、課題解決に取り組むことが大切です。

将来のまちづくりを担う子どもたちが自らの夢や希望を実現できるよう、郷土を愛する心を涵養するとともに、集団の中で切磋琢磨しながら確かな学力、豊かな人間性、健やかな心を育み、知・徳・体の調和のとれた「強く生き抜く力」の育成を目指します。

(2) 目的

当市の学校教育が目指す「強く生き抜く力」を育成するために、児童生徒にとって望ましい教育環境の整備を図ることを目的とします。

(3) 手法

- ① 全市的な観点から学校統合を検討します
- ② 小中一貫教育（小中一貫校及び義務教育学校）の導入の可能性について検討します

<学校の小規模校化に伴う課題>

- 小学校における課題……多様な考え方に触れることや同学年で切磋琢磨する環境を作りにくい、音楽や体育などにおいて学習活動が制限される場合がある、複式学級（※）における2つの学年の指導に伴う授業の準備など教員の負担増、教職員減に伴う学校運営上の負担増 など
- 中学校における課題……教科によっては専門教科の免許を有する教員が配置されない、部活動の選択肢が限られ希望する活動ができない など
- 学級規模の縮小に伴う課題……学習指導要領で求められているグループ学習など多様な学習活動を用いながら能動的・主体的に学び合うことが難しい など

※複式学級……児童または生徒の数が少なく、1つの学年の児童または生徒だけでは学級を編制することができない場合に、2つの学年で編制される学級のことです。

(4) 基本方針と方策

	基本方針	適正化・適正配置の方策
1	望ましい教育環境の整備 児童生徒にとって望ましい教育環境の整備を図ることを目的に行います。	<ul style="list-style-type: none"> ●当面は、現在の5中学校区内から学校がなくなることはないように配慮する必要があると考え、小学校を1校は存続することを基本とします。 ●中学校において全ての教科で専門免許を有する教員を確保するためには、9学級以上が必要となり、市内全ての中学校を一つに統合する必要があります。しかし、学区が広範囲になるなどの課題が生じることから、複数校の設置が必要であると考えます。 ●校舎は、既存の校舎を活用することを基本とします。
2	学校規模の考え方 学校規模の標準は、小・中学校とも12学級から18学級とされていますが、当市の実情に応じて適正化・適正配置を行います。 複式学級の措置は、可能な限り行わないこととします。	<p>【小学校】 学級数6学級以上（各学年1学級以上）を基準とします。</p> <p>【中学校】 学級数9学級以上（各学年3学級以上）が望ましいと考えますが、学区が広範囲になるなどの課題があることから、8学級以下となってもやむを得ないものとし、この場合、小中一貫教育の導入についても検討します。</p> <p>【1学級の人数】 15人～35人</p>
3	小規模校を存続させる場合の教育の充実 小中一貫教育（小中一貫校及び義務教育学校）の導入を検討します。	小中一貫教育の導入について検討するとともに、小規模校を存続させる場合は、小規模校のメリットを生かし、デメリットを最小化する工夫を行います。
4	通学条件を考慮した適正配置 児童生徒の状況及び通学距離などの児童生徒の負担を考慮した適正化・適正配置を行います。	通学時間は、小学校は45分以内、中学校は1時間以内を目安とし、通学距離が小学校はおおむね2.6km以上、中学校はおおむね4km以上の場合は、スクールバスの運行など通学手段の確保に努めます。
5	保護者、地域、市民の理解 保護者や地域、市民への理解を得ることに努めるとともに、学校と地域とのつながりへの配慮に努めます。	これまでの学校と地域との関わりに十分配慮し、学校規模の適正化・適正配置の必要性や考え方について、各中学校区での説明会やパブリックコメントの実施、教育広報の活用など、様々な機会を用いて理解を図るよう努めます。

2 基本方針に基づく対象校の抽出

No.	抽出の条件	学校名
1	複式学級を有する学校	栗林小学校、白山小学校、唐丹小学校
2	令和12年度までに複式学級が予測される学校	釜石小学校、唐丹中学校
3	令和12年度までに9学級の確保が見込めない中学校	釜石中学校、甲子中学校、釜石東中学校、大平中学校、唐丹中学校
4	令和12年度に全ての学級が15人未満となる学校	釜石小学校、双葉小学校、白山小学校、栗林小学校、唐丹小学校、唐丹中学校

推進計画策定委員会での検討状況

市教育委員会は、釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画策定委員会を設置し、基本方針に基づく推進計画策定に取り組んでいます。

計画期間は令和 7 年度から 14 年度までの 8 年間とし、前期計画期間（令和 7 年度から 10 年度）は小学校の複式学級の解消を目指すことを重点的に、後期計画期間（令和 11 年度から 14 年度）は中学校の学校規模の確保に向けた取組を重点的に推進していくことを検討しています。

■小学校

【1】複式学級のある小学校

栗林小学校、白山小学校、唐丹小学校

○統合の考え方

1、栗林小学校

統合先は、鶴住居小学校として検討しています。

2、白山小学校

統合先は、平田小学校または釜石小学校で検討しています。

3、唐丹小学校

現在の 5 中学校区に小学校を 1 校は存続することとしている基本方針に沿って、統合はしない方向性で検討しています。

※今後、複式学級が見込まれる釜石小学校については、児童数の推移を見定めつつ、PTA、地域、関係者の意見を踏まえて検討を進めていきます。

■中学校

【1】複式学級が見込まれる中学校

唐丹中学校

○統合の考え方

・全中学校の生徒数が減少していく中、学校規模を確保するため、釜石中学校、唐丹中学校、甲子中学校、大平中学校の 4 校の統合を検討しています。

釜石中学校の校舎を使用します。

・なお、唐丹中学校は令和 12・13 年度に複式学級が見込まれており、先立っての統合も検討します。

・中学校は、釜石中学校と釜石東中学校の市内 2 校体制を検討しています。

■児童生徒数の推計値

1 小学校の児童数、学級数の推移

単位:人、()内は学級数 ※赤字は複式学級

学校名	年 度													
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
釜石小	69 (6)	66 (6)	60 (5)	56 (5)	49 (4)	43 (4)	42 (4)	41 (4)	41 (4)	36 (4)	37 (3)	34 (3)	31 (3)	29 (3)
双葉小	105 (6)	95 (6)	87 (6)	77 (6)	71 (6)	61 (6)	57 (6)	56 (5)	52 (5)	50 (5)	44 (4)	44 (5)	41 (4)	36 (4)
小佐野小	251(10)	230 (9)	192 (8)	184 (8)	180 (8)	162 (7)	152 (7)	152 (7)	152 (7)	145 (7)	128 (6)	125 (6)	117 (6)	109 (6)
甲子小	224(10)	215 (9)	204 (9)	190 (7)	167 (6)	166 (6)	153 (6)	145 (6)	143 (6)	138 (6)	141 (6)	132 (6)	129 (6)	123 (6)
白山小	33 (3)	26 (4)	28 (4)	27 (4)	27 (4)	24(3)	21 (2)	21 (3)	18 (2)	15 (3)	12 (2)	15 (3)	18 (3)	18 (3)
平田小	143 (6)	147 (6)	144 (6)	146 (6)	132 (6)	124 (6)	119 (6)	113 (6)	113 (6)	109 (6)	109 (6)	109 (6)	105 (6)	102 (6)
鶯住居小	129 (6)	131 (6)	123 (6)	126 (6)	115 (6)	121 (6)	134 (6)	138 (6)	138 (6)	134 (6)	139 (6)	130 (6)	121 (6)	118 (6)
栗林小	25 (3)	24 (3)	20 (3)	16 (3)	13 (3)	14 (3)	11 (3)	9 (3)	9 (3)	10 (3)	9 (3)	7 (3)	7 (3)	6 (3)
唐丹小	38 (4)	38 (4)	32 (4)	34 (3)	32 (4)	36 (4)	32 (4)	30 (3)	31 (4)	26 (4)	28 (4)	24 (3)	27 (3)	26 (3)
合計	1,017 (54)	972 (53)	890 (50)	856 (49)	786 (47)	751 (45)	721 (44)	705 (43)	697 (43)	663 (44)	647 (40)	620 (41)	596 (40)	567 (40)

※R7年3月現在。R12年度までは出生数から算出した実数、R13年度以降は児童数の減少率等を考慮し算出した推計値

2 中学校の生徒数、学級数の推移

学校名	年 度													
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
釜石中	283 (10)	276 (10)	277 (10)	235 (8)	228 (7)	204 (6)	191 (6)	163 (6)	135 (6)	126 (6)	138 (6)	132 (5)	125 (5)	111 (5)
甲子中	113 (5)	114 (5)	110 (5)	118 (6)	120 (6)	114 (5)	112 (5)	101 (4)	96 (4)	84 (3)	70 (3)	74 (3)	67 (3)	64 (3)
大平中	75 (3)	89 (3)	82 (3)	86 (3)	92 (4)	93 (4)	97 (4)	87 (3)	83 (3)	80 (3)	75 (3)	68 (3)	60 (3)	59 (3)
釜石東中	86 (3)	85 (3)	90 (3)	81 (3)	91 (3)	83 (3)	79 (3)	69 (3)	65 (3)	67 (3)	62 (3)	72 (3)	77 (3)	84 (3)
唐丹中	27 (3)	26 (3)	26 (3)	26 (3)	23 (3)	16 (2)	13 (2)	16 (3)	16 (3)	21 (3)	16 (3)	20 (3)	11 (3)	14 (2)
合計	584 (24)	590 (24)	585 (24)	546 (23)	554 (23)	510 (20)	492 (20)	436 (19)	395 (19)	378 (18)	361 (18)	366 (17)	340 (17)	332 (16)

※R7年3月現在。R18年度までは出生数から算出した実数、R19年度以降は児童数の減少率等を考慮し算出した推計値

■学校統合の期待される効果と課題

【期待される効果】

- ・ 集団としてある一定の規模が確保できる
- ・ 複式学級が解消する
- ・ 切磋琢磨する機会や多様な意見に触れる機会が増える
- ・ 音楽や体育など集団で行う教育活動が充実する
- ・ 運動会や学習発表会、クラブ活動などが活発になる
- ・ 中学校における免許外指導が減少する
- ・ 友人が増える
- ・ 集団の中で多様な人間関係が形成されやすい
- ・ 集団での遊びが成立するようになる
- ・ PTA活動等での役割分担が可能となる など

【統合によって生じる課題】

- ・ 学校規模の変化に伴い、新たな生活に戸惑いが生じる
- ・ 児童生徒一人一人の把握が難しくなる
- ・ 学校行事等において、一人一人の個別の活動機会を設定しにくい
- ・ 通学時間が長くなる
- ・ 通学方法がスクールバスになることによる運動量の減少や体力の低下が懸念される
- ・ 学校と地域のつながりの希薄化が懸念される など

問い合わせ 釜石市教育委員会事務局 学校規模適正化推進室
TEL 27-8496 E-mail gakko_tekiseika_ofp@city.kamaishi.iwate.jp